



2026 年 9 月 30 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ビ ー エ イ ブ ル
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 佐 藤 順 英
(コード番号：604A 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 取 締 役 C F O 神 谷 均
(TEL 0240-25-8996)

2026 年 7 月期通期決算説明会質疑応答要旨

2026 年 9 月 28 日に開催した決算説明会において、投資家の皆様からご関心をお寄せいただいた事項について、Q&A 形式で取りまとめましたので、お知らせいたします。

本資料は、当社へのご理解をより深めていただくことを目的として作成しております。回答内容は本資料公表日時点の情報に基づいており、今後の事業環境や各種施策の進捗等により変更となる可能性がありますので、あらかじめご了承ください。

Q.1 2026 年 7 月期実績について、営業利益および経常利益が上場時に公表された計画に対して未達となりましたが、その要因はどのように分析されているのでしょうか。

A.1 2026 年 7 月期は、売上高および当期純利益が上場時の計画を上回った一方、営業利益および経常利益は計画を下回りました。

主な要因は、開発の項目が多いまたは新規性の高い一部案件において売上原価が想定を上回ったこと、ならびに上場を記念して従業員に支給した記念賞与により、一時的な人件費が発生したことです。記念賞与は、当社の競争力の源泉である現場を支える従業員に対し、上場という節目における貢献に報いる趣旨で支給したものであり、継続的な費用増を見込むものではありません。

Q.2 廃炉作業が進むほど難易度が上がると聞いた記憶があります。その背景について教えてください。また、競争環境および御社の優位性についても教えてください。

A.2 福島第一原子力発電所の廃炉作業は、周辺の比較的線量が低い領域の片付け等から、より高線量の領域へ進むにつれて、人が直接立ち入ることが難しくなり、作業の難易度が高まります。

難易度が高まるほど、現場の状況に応じてさまざまなアイデアを出し、ロボットや遠隔操作装置を開発しながら施工することが必要となります。

当社は、原子力発電所の保守および福島第一原子力発電所の廃炉対応を通じて培った現場力と技術開発力を生かし、現場の課題に応じた施工方法、ロボットおよび遠隔操作装置等を提案・開発し、施工まで一貫して対応しております。こうした創意工夫や技術開発力が、当社の差別化および競争優位性につながるものと考えております。

Q.3 説明会資料 25 ページの各主要 KPI について、数字の背景にある定性的なコメントや、御社の自己評価をいただけますでしょうか。また、今期はこれらの KPI をどのように見込んでいますか。

A.3 当社は、元請比率、高難度案件・新工法の提案に伴う特命受注件数および大型案件受注金額比率を主要 KPI としております。

2026 年 7 月期の元請率は 52%と目標の 55%を下回りました。下回った主な要因は、当社が成長戦略として事業領域の多様化を進めており、元請以外の案件が増加したことによるものです。

特命受注件数は、目標の 5 件以上に対して 6 件となり、目標を達成しました。特命受注は将来の継続案件や大型案件につながる可能性があるため、引き続き技術提案および営業活動に取り組んでまいります。

大型案件受注金額比率は 57%となり、前期から上昇しました。特命受注や新規性の高い工法の提案が評価され、継続案件や大型案件につながった結果であると認識しております。

2027 年 7 月期の元請比率については 55%以上、特命受注件数については 5 件以上、大型案件受注金額比率については 57%以上を、それぞれ目標としております。

なお、各 KPI は、案件の受注時期や案件構成等により変動する可能性があります。

Q.4 福島いわきバイオマス発電所が、将来、連結決算の対象となる可能性について教えてください。また、相応の投資額となっていますが、事業の収益性と投資リスクについて教えてください。

A.4 福島いわきバイオマス発電所を運営するエイブルエナジー合同会社（以下「同社」）の子会社化について、現時点で決定した事実はありません。当社は、まずは現行の運営体制のもとで、発電所の安定操業に注力してまいります。

同社は 20 年間の燃料価格と燃料購入数量の契約を締結しており、為替も 1 米ドル＝89 円で 20 年のヘッジをしております。これらにより、経済環境や地政学的なリスクの軽減に努めております。事業リスクとしては発電所の運転に当たり、設備のトラブル、運転上のミス、想定外の出力制御などが考えられますが、現在はこのようなトラブルがなく、順調に発電を継続しております。

引き続き、関係者と連携して安定操業に注力し、中長期的なリターンの獲得を目指してまいります。

Q.5 人員稼働率、キャパシティの余裕度および採用・離職の状況について教えてください。

A.5 人員稼働については、現在、必要な人員を効率的に配置し、人員を有効に稼働させながら業務を進めております。また、足元のキャパシティについては、概ね 9 割の稼働状況にあると認識しております。今後の事業拡大に対応するため、採用および育成を進めるとともに、一定の余力を確保できる体制の構築に取り組んでまいります。

採用面では、直近 2、3 年間の新卒採用は 10 名未満の水準で、中途採用が中心となっております。今後は、新卒採用についても強化していく方針です。

離職については、主力である廃炉関連および原子力発電所のメンテナンス領域では限定的である一方、その他の事業領域では若干の離職が生じております。引き続き、人材の採用、育成および定着に取り組んでまいります。

Q. 6 営業利益率の改善をもたらした要因についてご説明ください。売上原価率の改善と販管費率の改善のうち、どちらの効果が大きかったのか、その要因についても教えてください。

A. 6 2026 年 7 月期の営業利益率の改善には、販管費率の改善よりも、売上原価率の改善が大きく寄与したと認識しております。

売上原価率の改善については、受注段階における採算管理、施工計画の精度向上および工事進行中の原価管理の徹底等に取り組んだことが主な要因です。

一方、販管費については、現在、R&D など成長投資を進めている段階にあることから、前期並み、または増加する状況となっております。

今後も、受注段階における採算管理、施工計画の精度向上および原価管理の徹底に取り組んでまいります。

Q. 7 再生可能エネルギー事業の売上高が前期比 44.1%増の計画となっておりますが、電力小売事業の拡大を見込んでいるのでしょうか。あるいは、風力発電所のメンテナンスの貢献が大きいのでしょうか。

A. 7 2027 年 7 月期の再生可能エネルギー事業の増収は、電力小売事業の拡大ならびに風力発電所およびバイオマス発電所のメンテナンス業務の拡大の双方を見込んだものです。

電力小売事業については、前期は事業基盤を構築するための初期投資が先行しました。2027 年 7 月期は、いわき市との連携協定等を踏まえ、当社関係会社のバイオマス発電所で発電した電力を活用し、地域内における電力供給の拡大を進める計画です。

また、風力発電所およびバイオマス発電所のメンテナンスについては、現在進めている取組みを横展開し、売上高の拡大を図ってまいります。

これらを踏まえ、2027 年 7 月期の再生可能エネルギー事業の売上高は、前期比 44.1%増を計画しております。

Q. 8 浜岡原子力発電所 3 号機・4 号機に係る新規制基準適合性審査の申請取下げによる、当社の事業および業績予想への影響について教えてください。

A. 8 浜岡原子力発電所に関連して当社が検討していた案件については、当社にも参画の打診があり、対応を検討しておりましたが、現時点で契約締結には至っておりません。

このため、当該案件は当社の 2027 年 7 月期業績予想には織り込んでおらず、今回の申請取下げが当社の公表済み業績予想に与える影響はありません。

今後、当社業績に重要な影響を及ぼす事実が生じた場合には、適時開示規則に従い、速やかに公表いたします。

Q. 9 今後の売上増加を牽引する二つの分野について教えてください。一つ目は廃炉関連売上の増加ペース、二つ目は原子力発電所の再稼働に伴うメンテナンス売上の増加ペースです。

A.9 廃炉関連工事と、原子力発電所の再稼働に伴う点検・メンテナンスは、いずれも当社の売上増加を支える分野であると考えております。

2027 年 7 月期の工事事業全体の売上高は、前期の 8,619 百万円から 10,049 百万円への増加を計画しております。なお、工事事業を構成する廃炉、原子力、一般産業分野の内訳は現在開示しておりません。

廃炉関連については、当社の担当者が実績と経験を積み重ねることにより、今後、より難易度または新規性の高い案件への対応が増えていくものと考えております。このため、2026 年 7 月期から 2027 年 7 月期にかけても、売上高の増加を計画しております。

原子力発電所の再稼働関連については、再稼働に向けた工事に加え、再稼働後には通常の定期検査が発生するため、継続的なメンテナンス需要につながるものと考えております。

一方、再稼働の時期や案件規模は、規制当局の審査、地域の理解および発注者の計画等により変動する可能性があります。このため、2027 年 7 月期の業績予想においては、再稼働関連の売上増加を見込んでおりますが、過度な積み上げは行っておりません。

以上